

第二十七回「前田純孝賞」学生短歌コンクール 入賞作品

【大学生の部】

【前田純孝賞】

夏の日を浴びて帰ったわが顔はマスクの形にくり抜かれてた

青山学院大学 三年 福井 花菜

【選評 佐佐木 幸綱】

詩や短歌の一番の基盤は驚きの心だということを、あらためて認識させてくれる一首です。日焼けした肌と対照的なマスクの跡。まさに「マスクの形にくり抜かれてた」顔だったのです。「えっ！」という驚きの心が読者にもストレートに伝わってきます。

今年はコロナに関係のない作を「前田純孝賞」に、と考えて選にのぞんだのですが、マスクの出てくる歌を選んではしまいました。来年はぜひ、コロナとは関係ない歌を「前田純孝賞」に選びたいと思います。

【準前田純孝賞】

まだ少し夏に居たくて爪先にとびきり光る青色を塗る
久々に成人式に集まるも集合写真はこれが最後か

青山学院大学 三年 松本のぞみ
東京理科大学 四年 唐澤 篤史

【選者賞】

寒い朝遅れてごめん怖い顔ほんのり赤い友達の鼻
電話口できつと頭を下げている君だから許すでも早く来て
高3を全部マスクで覆われてでも内側で息をしていて

大阪国際大学 三年 知見 直佳
青山学院大学 四年 竹田 菜純
鳴門教育大学 一年 阪口 歩

【新温泉町長賞】

食堂で頼みがちな唐揚げ井甘辛味付けうめんだなこれが
朝六時彼のスポーツウェアの香を察知し犬はリード引つ張る
積み上げた想いを全て知る空は彼呼び止めた私の背を押す
ありがとうってほんとに思うと言えないねココアの缶を額に当てる

大阪国際大学 一年 岡野 虎太
青山学院大学 二年 富山 くるみ
青山学院大学 三年 二瓶 遥
東北大学 一年 菅田 季沙

【新温泉町教育長賞】

早朝に空を仰げば雁の群れ野鳥が教える冬の訪れ
花火果て屋台もつぎつぎ閉まりゆくもうすこしだけここにいたい
サンダルの出番は終わり来年を思い描きて落とすベディキュア
オンライン授業で会話しているが壁との会話してるみたいだ

頌栄短期大学 二年 山脇 匠
青山学院大学 三年 松下 彩夏
青山学院大学 三年 三井らん
威徳大学 二年 孫仁瑞

【神戸新聞社賞】

オンライングループワークではじめてまして切りかわる間に髪整える
秋風がスカートあげよとそそのかさ校則破って駆ける放課後
ひとつずつ席空け座したサラリーマンピアノの黒鍵並ぶようだね
嘘ついて帰ってきました今晚の月がことさら大きく見える
二十代は苦しいよって聞いている湿気しかなない電車の夜に

頌栄短期大学 二年 有馬 鈴音
青山学院大学 二年 青木 楓
青山学院大学 四年 渡邊 万里奈
名古屋大学 二年 小田 沙也加
一橋大学 四年 加藤 芳基